

平成 28 年 網走市議会
地 方 創 生 総 合 戦 略 検 討 特 別 委 員 会 会 議 録
平成 28 年 6 月 16 日（木曜日）

○日時 平成28年6月16日 午後1時43分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるK P I の達成状況について
2. その他

○出席委員（9名）

委 員 長	平 賀 貴 幸
副 委 員 長	井 戸 達 也
委 員	金 兵 智 則
	栗 田 政 男
	近 藤 憲 治
	田 島 央 一
	立 崎 聡 一
	永 本 浩 子
	松 浦 敏 司

○欠席委員（0名）

○委員外議員（2名）

議 長	山 田 庫 司 郎
副 議 長	佐 々 木 玲 子

○傍聴議員（1名）

小田部 照

○説明者

副 市 長	川 田 昌 弘
企画総務部長	岩 永 雅 浩
企画調整課長	高 井 秀 利

○事務局職員

事 務 局 長	大 島 昌 之
次 長	永 倉 一 之
係	田 中 康 平

午後1時43分開会

○平賀貴幸委員長 お疲れさまです。

ただいまより、地方創生総合戦略検討特別委員会を開会いたします。

本日の案件は、網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるK P I への達成状況についてであります。早速説明を求めたいと思います。

○高井秀利企画調整課長 昨年10月の戦略策定後、現時点の網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるK P I の達成状況について説明をさせていただきます。

K P I の達成状況につきましては、5月31日に開催した網走市選択する未来会議でも御説明をさせていただいておりますので、その際にいただいた御意見もあわせて報告をさせていただきます。

資料1号をごらん願います。

国の地方創生交付金を活用して実施をいたしました事業の一覧であります。交付申請時にK P I を設定しておりますので、事業の実施結果を国に報告する必要があることから、議員の皆様より御意見をいただきたいというふうに考えております。

試験実施結果の説明につきましては、設定した目標に到達できなかった黄色で網掛けしたもののみとさせていただきます。

初めに、健康管理課所管、健康都市づくり推進事業、健康都市づくり推進事業であります。

目標は市が進めているベジラブル運動の飲食店協力店を10店舗、健康づくり講座受講者数を60人といいたしました。

事業の結果、3月末時点で協力店が8店舗、健康づくり講座受講者が59人でありました。

結果の理由でありますけれども、飲食店協力店につきましては、募集を市のホームページ、各飲食店団体への協力依頼、新聞等の記事掲載などで実施をいたしましたが、運動に対しての理解と協力をいただくことがなかなかできなかったというわけでありませう。

健康づくり講座受講者につきましては、おおむね目標どおりの受講者となりましたが、スタジオ及びプールで実施している講座であるため、冬季間の参加者が減少しております。

次に、農政課所管、次世代農業後継者対策、次世代農業後継者対策事業であります。

未婚農業者のパーソナル対策であります。目標は参加農業後継者等人数延べ25人といいたしました。

事業を実施した結果としまして、参加者数は18人でありました。

結果の理由であります、参加した2回のイベントが全て札幌市での開催にもかかわらず移動がJR利用であったため、行程が長いことから参加者が伸び悩んだ要因の一つではないかというふうに考えております。

次に、同じく農政課所管、地場産品販路拡大・基盤強化事業、地場産品海外輸出促進事業ほか4つの事業であります。

目標は、地場産品の輸出量を500トン、地場産品の輸出金額を1億5,000万円といたしました。

事業を実施した結果、3月末時点で輸出量は300トン、輸出金額は1億2,000万円でありました。

結果の理由であります、平成27年度につきましては、生産不良と他作物との選果作業の重複により出荷が減少し、輸出量も減少する結果となりました。

この事業に対しまして、選択する未来会議委員より、目標はどのように設定されたのかというふうな御意見をいただいております、戦略策定に当たり関係団体と協議の上、設定した旨を説明しております。

次に、商工労働課所管、大都市圏販路開拓支援事業、大都市圏販路開拓支援事業であります。

目標は商談会参加事業を4社、物販参加企業を4社といたしました。

事業を実施した結果、昨年6月に実施した大阪物産事業の物販に参加が3社。2月に実施した商談会には参加が3社でありました。

結果の理由であります、日程等の都合でそれぞれ3社しか出展することができませんでした。

次に、管理課所管、小中学校学力向上対策事業であります。

目標は、算数・数学の勉強が好きな児童・生徒の割合を小学校62%、中学校55%、算数・数学の授業内容がわかる児童・生徒の割合を小学校79%、中学校74%といたしました。

事業を実施した結果、全国学力・学習状況調査が8月に判明することから、記載の内容は、平成27年4月実施のアンケート結果を参考までに記載したものであります。好きな児童・生徒の割合が小学校が68.5%、中学校が48.7%、わかる児童・生徒の割合が小学校83.2%、中学校71.2%でありました。

各学校では本事業の導入以降、地域指導の改善、充実が図られており、また複数体制での指導が可能

となったことから、個々の習熟度に応じた指導や、算数・数学の関心、意欲を高めるための授業改善も図られております。この事業に対しまして、選択する未来会議委員により、目標はどのように設定されたのかといった御意見をいただいております、関係団体と協議の上、設定した旨を御説明しております。

次に、観光課所管、ひがし北海道空港連携海外観光客誘致事業であります。

釧路市、帯広市と連携して実施した台湾プロモーションであります、目標は、全道の外国人延べ宿泊者数に占める道東の外国人延べ宿泊者数の割合を8.3%といたしました。

事業を実施した結果、昨年9月の平成27年度上半期の集計であります、7.2%でありました。

結果の理由であります、プロモーションにより台湾からの誘客は増加したものの、道央・道南に集中する訪日外国人が増加したことから、道内シェアといたしましては低下をしております。

地方創生交付金に係るKPIの説明については以上でございます。

○平賀貴幸委員長 それでは質疑に入ります。資料1号についての質疑です。

○永本浩子委員 この商談参加が、企業4社と物販参加企業4社の目標で3社ということで、日程の都合が合わなかったというお話があったのですけれども、都合さえあれば行きたいというところは何かくらいあったのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 当初、目標どおりの業者が参加できるというふうに判断をしていたのですが、日程の都合がどうしても合わないということと、出展予定の事業者が参加するものが重なっていたということがあったので、両者とも3社となってしまったということであります。

○永本浩子委員 基本4社を見込んでという動きがあつて、どうしても1社だけ都合がつかなかったということで理解してよろしいでしょうか。あとこの確認時期なのですけれども、算数・数学の勉強が好きというこの項目、28年の8月となっておりますけれども、ことしの8月ということでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 27年度の実施事業の結果を参考にしているのですけれども、27年度の事業をした結果、試験を受けるのが28年4月になりますので、その数値の結果が出るのがことしの8月になります。

あくまでも参考として載せてあります27年度実施した結果は今年度の試験結果に現れますので、それは後ほどまたやりたいと思っております。

○永本浩子委員 今ここに出ている数値というものは暫定的な27年のものだということで、ことしの8月になったらこれよりも伸びている可能性は十分にあると捉えてよろしいでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 伸びている数字が出てくると信じております。

○永本浩子委員 理解いたしました。よろしくお願いいたします。

○松浦敏司委員 健康都市づくり推進事業の中で、目標としては10店舗だけれども8店舗に終わったと。

健康づくり講座受講についても60人が59人、決して数字的には悪くないと思います。

この点について、原課としてはどんな評価をしているのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 松浦委員がおっしゃったとおり、原課としてもほぼ達成目標どおりの数字だというふうに判断をしております、引き続きベジラブル運動の推進でありますとか、健康プールを活用した健康づくり事業に取り組んでいきたいというふうに判断をしております。

○松浦敏司委員 算数・数学の関係で、この目標よりも、中学校の部分だと目標より低いだけだけれども、小学校で言えば逆に結構大きく上回っているというような状況です。先ほど永本委員からも話ありましたがこれも決して悪くないと思うのですね。

唯一引っかかることには、数学で中学校の部分がちょっと低いとは思いますが、そんなに悲観することもないのかなと。数字が高ければそれにこしたことないのだけれども、評価としてはそんなには悪くないと思っているのですが、いかがですか。

○高井秀利企画調整課長 こちらにつきましても全国平均との差は、後ほど戦略本体のKPIにもありますけれども、全国平均は年々縮小傾向にありますので、若干数値は達しておりませんが、ほぼ目標とする数字には近いところまでいっているのかなと判断します。

○永本浩子委員 今の松浦委員と同じところなのですが、健康づくり、ベジラブル運動における飲食店の協力店、私も一般質問でもさせていただいて、その協力店づくりのツールというのがやはり組

合を通してとかホームページとか、そういった呼びかけのなものだけだと。去年視察した足立区は、こういったメニューとか、ベジファーストとか、そういったものをきちんと口頭で説明をして、かなりの数の協力店を受けたという話を聞いてきて、そういったことも提案させていただいたのですが、まず組合を通してからという、ちょっと控え目な取り組みでスタートしたかなと思うのです。今後、本当は目標の10店舗も私としては少ない数字だと思っているのですが、もう一歩踏み込んだ協力店づくりを推進していただきたいと思うのですが、その点いかがでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 本日の委員会で委員からいただいた御意見を原課にもお伝えして、協力店をふやす取り組みに尽力していただけていると思っています。

○永本浩子委員 是非よろしくお願いいたします。

○金兵智則委員 最初に確認をさせていただきたいのですが、これは平成27年度に国からの地方創生交付金によって行った事業と、その結果という理解でよかったですか。

○高井秀利企画調整課長 交付金自体は26年度に交付されて繰り越したものもありますけれども、27年度に実施した事業であります。

○金兵智則委員 総体的に見てどのような評価をされているのかお伺いしたいと思います。

○高井秀利企画調整課長 総合戦略の策定事業を除くと13事業ありまして、そのうち7事業は目標に到達しているということです。53%という数字ですが、全国平均から見ればかなりいい数字なのかなと思っております。

○金兵智則委員 全国平均を基準とするか、半数を超えているからいいとするか。このへんの基準は分かるところかなと思います。個別のお話についてはそれぞれあったと思うのですが、商談参加数が4社から3社、日程の都合でということでしたので、これについては日程の詰めが甘かったのかなというところもあります。

小中学校の学力のところについても、27年度の4月でこういうアンケート結果が出ていたということであれば、目標のKPI例えば小学校62%、68.5%ともう既にクリアしていた数値を目標設定にしたのかなという疑問もちょっと湧くのですが、その辺についていかがですか。

○平賀貴幸委員長 休憩します。

午後 2 時00分休憩

午後 2 時01分再開

○平賀貴幸委員長 それでは再開いたします。

金兵委員の質問に対する答弁から。

○高井秀利企画調整課長 小中学校学力向上対策事業の目標の設定でありますけれども、交付金申請時点での目標値として62%、55%、79%、74%で設定しておりますので、その後にできた数字がここに記載した参考の数値となっております。

○金兵智則委員 理解させていただきたいと思えます。ちなみに28年度も継続してやっている事業もあると思うのですけれども、そういった理解でよかったでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 交付金を使った事業は実施していません。しかし、ふるさと寄附等を財源にして行っている事業はあります。

○金兵智則委員 目標をクリアした事業、継続している事業もあるのかなと思うのですけれども、この目標設定というのは今後どうなっていくのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 交付金を活用した事業につきましては国に報告した時点で終了になりますので、この後また戦略本体の説明をさせていただくのですけれども、戦略本体の中で設定しているK P I等については、今後また年度ごとに改定の必要があるかどうかの判断をしております。

○平賀貴幸委員長 他、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは国地方創生交付金に係るK P Iの検証方法一覧表、資料1号については説明を聞き終えたということにさせていただきます。

それでは続いて、網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略、本体の方のK P Iの検討方法一覧表の中身について説明を求めたいと思います。

○高井秀利企画調整課長 続きまして、資料2号をごらん願います。

網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定した計画期間におけるK P Iの現時点での達成状況を御説明いたします。

こちらにつきましては5年間の計画期間の1年目の結果でございますが、目標に対して結果が出ていない、黄色で網掛けしたものの説明とします。戦略は基本目標5までありますので目標ごとに説明し、御意見をいただきたいと思います。と考えております。

初めに、1 ページ、基本目標1、若い世代を中心

として、安心して働くための産業振興と雇用の場の創出のK P Iでございますが、目標は市内事業者の従業員数1万6,474人を1万6,000人といたしました。

こちらは、5年ごとに実施される経済センサスにより確認することとしておりますので、確認する時期が平成29年となるため結果は記載をしておりませんが、状況といたしましては平成26年と平成22年の人口比が98.5%で1.5%の減少となっております。また年度末における月間有効求人数は5.5%上昇し、月間有効求人求職者数は1.9%の減少となっております。

次に、具体的な施策、中心市街地と網走川周辺のにぎわい創出であります。

目標は、中心市街地通行者数平日9,000人、休日6,500人で、結果は平日4,752人、休日1,680人でありました。

理由といたしましては、通行者数調査日の天候が不良であったため、少ない結果となっております。

次に、具体的な施策販路拡大に向けた支援であります。

目標は、H A C C P認定施設保有企業数ホタテ製品5社。サケ製品4社で、結果はホタテ製品4社、サケ製品1社でありました。

結果としては、基準値と同数であります。ホタテ製品に係るE U・H A C C P認定施設に向けて、鋭意取り組み中であると伺っております。なおホタテ製品の施設保有企業社数は1社であります。日本国内でも当市の1社のみであると伺っております。

次に、同じく具体的な施策販路拡大に向けた支援の目標、年間の海外輸出量、長芋1,000トン4億円。その他農産物1億円、輸出相手国7カ国で、結果は年間の海外輸出量、長いも300トン1億2,000万円。

その他農産物ゼロ円、輸出相手国2カ国でありました。

結果の理由であります。交付金の理由と同じく平成27年度については、生産不良と他作物との選果作業の重複により出荷が減少し、輸出量も減少する結果となりました。

次に、具体的な施策、網走港の利用であります。

目標は、網走港からの移・輸出入貨物取扱量年間41万トン、金額年間7億円で、結果は38万1,000トン、4億7,000万円でありました。

また、小麦集出荷施設の供用開始に伴い、内貿貨物は増加傾向にあります。外貿の貨物が減少をしています。

次に、具体的な施策、企業誘致の促進であります。

目標は、企業誘致件数2件、雇用数20人で、結果はゼロでありました。

結果の理由であります。データセンター構築展参加、広域連携企業誘致セミナー事業開催等により、企業との関係構築に努めたものの、誘致までは至りませんでした。

次に、具体的な施策、若者や女性を含めた起業・事業化、新製品創出支援であります。

目標は、市と会議所が支援した企業創業数50社で、結果は3社でありました。

結果の理由であります。飲食店2件とサービス業1件の実績でありましたが、相談人数は26名となっており、今年度以降、操業数の増加が期待をされております。

次に、具体的な施策、U・Iターンの推進であります。

目標は、定住する協力隊員数6人で、結果はゼロ人でありました。

結果の理由であります。平成27年度から協力隊制度を活用しており、3年間の任期就労終了後から定住に向けて取り組んでまいります。本施策につきましては、選択する未来会議議長より、協力隊の人数はもっとふやすべきという御意見をいただいております。

基本目標1に係るKPIの検証については以上でございます。

次に、基本目標2、観光や健康・スポーツなど網走の地域特性を生かした交流人口の拡大のKPIでございます。

目標は、観光入込客数141万5,000人を170万人といたしました。

結果としましては、今月中旬の観光客入込調査によりますと、平成27年度は153万人でありました。

結果の理由であります。地方創生加速化交付金事業の活用や流氷館のリニューアルによるものと判断しております。

本目標に対しましては、選択する未来会議議長より一時期落ち込んでいた観光入込数が漸増しているのは結構であるという御意見をいただいております。

次に、具体的な施策、スポーツ・芸術文化合宿の推進と大会・会議の誘致促進であります。

目標は、合宿参加人数がスポーツ、年2,000人、文化、年300人で、結果は、スポーツ、年1,753人、文化、年140人でありました。

今後も各種大会等に出向き、積極的な誘致活動を実施したいと考えております。

本施策に対しまして選択する未来会議の委員より、夏だけではなく冬のスポーツ合宿にも取り組んではどうかという御意見をいただいております。

基本目標2に係るKPIの検証は以上でございます。

次に、資料2ページ、基本目標3、若い世代が健康で、希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくりのKPIでございます。

目標は、合計特殊出生率1.51を1.65といたしました。

結果としましては、健康管理課の調査によりますと、平成27年度は1.64でありました。

結果の理由になりますが、出産・子育てに係る経済的・精神的負担の軽減と環境づくりに努めたことによるものと判断をしております。

本目標のKPIで、選択する未来会議の中で毎年数値が変動しているが、その理由はという御質問をいただいたのですけれども、これに対して別の委員から、増減は各個人の気分によるものでよくわからない。出生率と収入は、相関関係にあるといった御意見が出ておりました。

次に、具体的な施策、出会いの場の創出であります。

目標は、出会いの場の創出数が年6回、結果は3回でありました。

結果の理由ですが、戦略の策定後、平成28年度に新規事業で予算化したことから、平成28年度以降に場の創出に取り組んでまいりたいと考えております。

本施策に対しましては、選択する未来会議議長より、この事業を活用し会議の委員や関係の皆様に出会いの場を企画・運営していただきたいという御意見が出ておりました。

次に、具体的な施策、感染症予防対策の実施であります。

目標は、子どもインフルエンザ予防接種率が75%で、結果は67.45%でありました。

結果の理由であります。幼児・小学生の接種率

は前年並みでありましたが、中学生の接種率が約10%低くなりました。

本施策に対しましては、選択する未来会議委員より、中学生のときに周囲のインフルエンザ予防接種への関心は低かったのも、もっと積極的な周知が必要ではないか。学校の場合は親の了解を一律に得ることが難しいので、上から一律に接種を促すというより、なぜ予防接種が必要かということを周知すべきという御意見でありました。

なお基本目標3では、ほかに産科・小児科医療機関数、病後児保育対応保育所数、子育てがしやすいと感じる割合に対し、記載のと通りの御意見もいただいております。基本目標3に係るKPIの検証については以上でございます。

次に、資料3ページの基本目標4、東京農業大学、日本体育大学などと連携し、みずから学び「明日をひらくひと」の育成のKPIですが、目標は全国学力調査の全国平均正答率との差、全国体力調査の全国平均との差をそれぞれ全国平均といたしました。全国学力学習状況調査は、本年4月に実施し8月に結果がまとまり、全国体力運動能力運動習慣等調査は7月に実施し12月に結果がまとまることから、記載の内容は平成27年の結果を参考までに記載したものであります。

結果としましては、学力調査結果において小学生マイナス2.5、中学生マイナス1.4でありました。また、全国体力調査において小5男子マイナス0.6、小5女子プラス0.3、中2男子マイナス4.1、中2女子マイナス6.5でありました。結果であります、全国平均との差は小学校・中学校ともに平成25年度以降縮小する傾向にあります。

次に、具体的な施策、多様な学習の場の創出であります。

目標は、子供の学習の場の参加者数800人で、結果は563人でありました。

理由としましては、講師の都合、悪天候による講座開催の減となっております。

なお基本目標4に対しまして、選択する未来会議より御意見はございませんでした。基本目標4に係るKPIの検証については以上でございます。

次に、資料4ページの基本目標5の支え合い、安心して暮らすことができる共生型地域社会づくりのKPIでございますが、目標は健康寿命男性79.34歳、女性84.19歳、人口の維持3万8,616人、生活習慣病罹患率19.98%といたしました。

結果としましては、健康寿命男性78.33歳、女性82.61歳、人口の維持3万8,966人、生活習慣病罹患率20.97%でありました。

結果から今後も、各種関係機関・団体等と連携して取り組みを実施していきたいと考えております。

次に、具体的な施策、住環境の改善であります。

目標は、省エネ住宅新築戸数が年34戸、バリアフリー改修戸数が年20戸で、結果は省エネ25戸、バリアフリー8戸でありました。

結果の理由といたしましては、平成27年度は市内の新築着工戸数が減少していることが影響していると考えております。

また今年度より、新たに住環境改善の補助制度を創設したため、バリアフリー改修戸数の増加が予想されております。

次に、具体的な施策、その他の広域連携の推進であります。

目標は、救急医療体制の対応日数が年365日、救急搬送疾病程度軽傷割合が35%で、結果は救急医療が365日、軽傷割合が38.3%でありました。

搬送件数そのものは減少しておりますが、軽傷割合は22年から26年で37%から38%台で推移しております。

基本目標5に対しまして、選択する未来会議より御意見はございませんでした。

基本目標5に係るKPIの検証につきましては以上になります。

○平賀貴幸委員長 それでは質疑に入りますが、多岐にわたりますため基本目標ごとに質疑を進めていきたいと思います。

最初に基本目標1に関して、並びに関連する事業について質疑に入ります。

○田島央一委員 基本目標の1番下のU・Iターンの推進のところで、協力隊の確認時期が随時になっていますけれど、先ほどの説明だと協力隊員の期間が終わってからカウントするということであれば、ここは書き直した方がわかりやすいのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 はい、随時を3年後の日付以降に直したいと思います。

○田島央一委員 承知しました。

○平賀貴幸委員長 ほかにございませんか。

○金兵智則委員 中心市街地の通行者数の話は、誰かからあるかなと思ったのですが、このやり方はこれで正しいのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 歩行者数の調査自体は、例年同じやり方でやっていると思うのですが、たまたまその事業を実施する日にちはもう設定して契約等を進めていると思いますので、その変更ができなかったということだと思います。

○金兵智則委員 今後もこのやり方をずっと続けていって、例えば5年後でしたよね。

5年後も天気が悪かったら結局目標に達しないということで終わりますけど、それで問題ないのですか。

○高井秀利企画調整課長 委員からいただいた御意見を原課のほうに伝えまして、調査方法等については検討をするような話をしたいと思います。

○金兵智則委員 以上です。

○平賀貴幸委員長 ほかにございませんか。

○松浦敏司委員 網走港の活用ということでの目標を、37万から41万というふうになったのだけれども、結果は38.1万というような数字があるのですが、結果の数字というのは、年平均といえますか、近年の状況からいえばどんな違いがあるのでしょうか。ほとんど変わらないのか。

○高井秀利企画調整課長 正確な資料の数値を持っていないのですが、大体が平年どおりの数値だというふうには聞いております。

○松浦敏司委員 なかなかこの部分は大変なところなのですよね。いつも議会の方でやりとりするのですが、やはり日本全体がもっと景気が良くなってこないと、なかなかこういった部分はそう簡単には一気にぐっと伸びるということもないだろうし、いろんな関係があるので努力をしていかなければならないと思うのですが、非常にこの部分は大変なところだなというふうに感じているところであります。

○岩永雅浩企画総務部長 松浦委員からの御質問の件ですが、外貿につきましては水産物の輸入がかなり減っているという影響を受けています。一方で内貿については、小麦の船積みセンターができた関係で輸出がふえているというところでプラス条件にあるということです。その強みをどう生かしていくかというのは、今後の課題だと考えています。

○永本浩子委員 企業誘致の促進なのですが、目標が2件、20人で、今のところはゼロということなのですが、3月議会のすぐ後にもデータセンターの誘致の関係で市のほうで動かれたと思う

のですが、感触というものはどうなのでしょう。

○高井秀利企画調整課長 出展することで多くの企業の方との面識は持てたということで期待はしております。ただ、具体的な話ということにはつながっていないというふうになっております。

○永本浩子委員 目標は5年後だということだと思うのですが、そのほかにも幾つか誘致したいという思いで動いている先とかは、名前までは公表できなかったとしても何件かあるのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 具体的に今この企業と交渉をしているという話は聞いておりませんが、積極的にまた出展等はしていきたいと思います。

○永本浩子委員 誘致の方はそう簡単にできることではないことは、よくわかっているのですが、この努力を続けていただいて、少しでも網走に新しい企業が来てくれるように是非お願いしたいと思います。

あと、この起業・創業数、今回3社ということですが50社の目標にはなかなか厳しいとは思いますが、相談があった26名というのが、希望が見えるかなというところで、こういったところの取り組みがこの相談のあった26名の中から可能性が見えてきそうな感じなのではないでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 26名の方から相談をいただいている中で、なかなかその実際に起業・創業まではいかないという条件がいろいろあったようなので、そこをクリアするように原課のほうでは対応したいと話を聞いています。

○永本浩子委員 了解いたしました。是非よろしく願いいたします。

○平賀貴幸委員長 ほかにございませんか。

○金兵智則委員 黄色の網掛けになっていないところは、順調に推移をしているということでよかったですね。

○高井秀利企画調整課長 現時点では目標に到達しているものもありますので、順調に進捗していると判断しております。

○金兵智則委員 例えば大規模発電の誘致だと、5年後までに2施設から4施設にという目標の中、最初の1年でもう3施設が出来たということで順調に進出しているなという理解なのですが、このシルバー人材センターの会員数358人から5年後に428人にふやそうという目標だったと思うのですが、最初の1年で6名、最初の1年が1年間でなかった

ので月数で計算すると到達するという見込みでいいのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 1年間の数字は6名しかふえておりませんが、目標数値に向けて、原課のほうでは対応しているということです。

○金兵智則委員 すべての目標、多分原課がこれに向けて対応すると思うのですね。この多分出てきた数字から計算、例えば最初の1年は、期間的には半年ぐらいになるのかなと思うのですけど、半年で6人、年間で12人として計算しても428人に到達しないですね。正確には4年半しかないと思うので、そういったところでそこが順調に推移していて、きちっと対応するから大丈夫だという根拠に僕はならないと思うので、事細かく見ていかなければいけないと思うのですけど、いかがでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 委員おっしゃるとおり、このままの数字の推移でいきますと到達には難しいかもしれないので、取り組みの内容につきましては、委員から御指摘あった旨を原課のほうに伝えまして、検討をしていただくように考えております。

○平賀貴幸委員長 他にいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので次、基本目標2に移ります。質疑に入ります。何かございませんか。

○永本浩子委員 このスポーツ合宿の人数、かなり網走スポーツ合宿はいいところにいると思うのですけど、目標からするとまだちょっと足りないということで、先ほど真冬の合宿にも取り組むという話があったのですけども、市として具体的に何か案は出ているのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 先ほど説明したときの冬の合宿に取り組んではどうかということは、選択する未来会議の中でいただいた御意見でありまして、今の時点で冬にこのスポーツ競技が合宿にというようには決まっておりますけれども、原課のほうでもそういった取り組みは進めたいと判断しております。

○永本浩子委員 やっぱり冬というのがなかなか厳しいという見方と、雪があることを生かせるという見方の両方の意味をうまく生かすことができれば、本当に市としても助かると思いますので、ぜひ推進していただきたいということと、文化のほうも300人の目標なのですからけれども今140人ということで、なかなかこれも力を入れていかないと、目標達成がスポーツよりもこちらのほうが大変かなという気も

するのですけれども、これに関してはどのようにお考えですか。

○高井秀利企画調整課長 これにつきましても、取り組みは積極的に行いたいというふうに聞いておりますので、確かにおっしゃるとおり目標はちょっと難しい面もありますけども、もう少し取り組みの推移を見まして、その後K P Iの設定等を変更したほうがいいのかどうか判断しながら戦略推進に向けて取り組んでいきたいと考えております。

○永本浩子委員 了解いたしました。

○金兵智則委員 ちなみに合宿参加人数スポーツ1,735人から2,000人ということで、いいのかなと思うのですけれども、どこかに提出する資料だとすれば、そういうふうになっていますというご報告でした。

ここも先ほどと同じなのですから、白地、例えば宿泊客数や外国人宿泊客数、これもこのまま推移していても、難しいところなのではないかなというところがありますので、もしこれで達成できるところの、担当課でわかっているところがあるなら、後ほどでも構わないのでお示ししていただきたいというふうに思うのですけど、いかがでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 今の時点で、数字が153万人、37万4,000人という数字になっているのですけれども、今後この目標に向けて事業を推進していくのですけども、その結果毎年ということでしょうか。

○金兵智則委員 先ほどのシルバー人材センターの話と一緒に、入り込み客数は大幅にふえていますけれども、宿泊者数35万9,000人を50万9,000人にふやすに当たり、1年目で37万4,000人ですとか、外国人宿泊数は3万2,000人を5年後に6万人にふやすに当たり、今現在3万5,000人で黄色くなっていないというのは、何かしらの多分理由があるのだと思うのです。このままこういう伸びをしていくと、ここにいづから多分黄色になってないということがあるのだと思います。

それが今なぜですかとお伺いしても難しいのかなと思いますので、これがもし担当課で押さえているところがあれば、後ほどでも構わないのでお示ししていただきたいというふうに思うのですが、いかがですか。

○高井秀利企画調整課長 黄色に網掛けをしなかった理由につきましては、単純に目標を設定した年よ

りも数値が改善しているものは色を塗らなかったというところでもあります。

このままでいくと、どういう見込みなのかという数値等につきましては、各課のほうにいただいた御意見を伝えて、今後の目標についての到達度合いなどを報告できる形で、資料等を作成したいと思います。

○平賀貴幸委員長 ほかにございませんか。基本目標2についてはよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○平賀貴幸委員長 それでは続いて基本目標3についての質疑に移ります。

○永本浩子委員 出会いの場の創出なのですが、年6回というのを28年度以降取り組んでいきたいという話が先ほどありましたけれども、その具体的なものは決まっていらないのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 今、企画調整課のほうで具体的に支援を対象としている事業等はありませんので、積極的に青团連の方たちと話し合いを機会あるごとに設置しておりますが、なかなかそういった企画というのが挙がってこないの、企画調整課のほうでも何らかのそういったアクションができないかということで検討をしている最中でもあります。

○永本浩子委員 今までが3回というのは、3回実施したということですね。その3回は具体的にどのようなものだったのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 出会いの場の3回というのは、農政課の先ほどの交付金の活用する事業、ふねコン等を含めて3回にしております。

○永本浩子委員 今回一般質問でもやるのですけれども、視察に行った先で、どこもこの出会いの場の創出という人口減少に対する対策としてやっています。

鳥取県でやられていた内容が、一対一の出会いと、少人数の出会いと、多人数の出会いの3段階に分けるということで、すごくその分け方も具体的に明確で、どこもこれからいよいよ本格的に取り組むということなのですから、鳥取県の場合は結構早くから取り組んでいてある程度の結果も出ているようなので、ぜひそういったところも参考にさせていただきたいと思います。

やはり具体的なものが出てこない、一番問題なのがそこできちんと、結婚・出産・定住となる方をどうふやしていくかということだと思いますので、研究していただいて、網走としても具体的なもの

のをどんどん出していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○平賀貴幸委員長 他にいかがですか。

○松浦敏司委員 周産期・小児医療提供体制ということで、今のところ産科で2施設、小児科で4施設ということではありますが、実際には医師の高齢化が進んできているのだと思うのです。このままだとこの計画、5年間の計画なのだけれども、その辺を考えると、高齢の医師は体の続く限り頑張ると言っていますが、それを健康であればできるのだと思うけれども、そういったこともちょっと懸念されるので、ちょっと不安があるかなと思っています。その辺での認識はどうでしょう。

○高井秀利企画調整課長 医師の確保につきましては、選択する未来会議の委員さんからも、心配をされる声をいただいております。

本市としても医師・看護師・薬剤師等の確保につきましては各種事業に取り組んでおりますので、そういったものをまた充実させながら、医療機関が減少しないような取り組みも同時に進めていきたいと思っています。

○松浦敏司委員 非常に難しい問題です。幾ら来てくれと言っても、そう簡単には絶対数が。医師なり看護師なりはいるのだけれども、偏重があつてなかなかこちらの方までは来ないという状況があるので、難しいかなというふうに思います。

あと、インフルエンザは指摘があるように、幼児・児童は比較的いいけれども、中学生とかは自覚の問題もいろいろあるのでしょうか。やはりここで指摘されているとおりでと思います。予防接種の意味、大切さを教育の中できちっと説明し、親に対してもその辺が周知することが大事だと思うので、しっかりやって目標の数字に早く到達するようにしていただきたいということです。

○平賀貴幸委員長 ほかにいかがですか。

○田島央一委員 合計特殊出生率のことでお伺いしたいのですが、こんなに単年でこれだけ変動が出るものかどうかわからなかったのですが、この辺の統計のとり方も含めて、分析は何かされているものはあるのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 選択する未来会議でも同じような御意見をいただきまして、結論からいうと理由はわからないということで、調査方法につきましては毎年変更するわけではないので、その数字

の変動の理由につきましては経済的な要因もあるのかと思うのですが、結果としてはよくわからないという状況になっています。

○田島央一委員 例えば時期はまた別で25年から27年としか書いていないけれど、例えば国の制度で子供の手当が拡充されるなどで動いているのかなとか、いろいろ想図をめぐらしてしまうのですけど、そういった分析は特段ないですか。

○高井秀利企画調整課長 現時点ではそういった他の助成等が影響したという内容の分析はしておりません。

○平賀貴幸委員長 ほかいかがですか。

○金兵智則委員 今の話なのですけども、分析というか、PDCAで言えばチェックになるかなと思うのですけど、やっていく方向性もないのですか。

○岩永雅浩企画総務部長 合計特殊出生率のいわゆる確定値については、資料にもあるように、今出ている数字については平成20年から24年の数値です。次にこのような数値が発表發送されるのが29年ということになります。そこの中ではいわゆるその国の専門家による分析もあって、一般論的なことが実際に示されます。それと照らす形で網走市では同じような事業をやっているの、同じぐらいの水準になったとか、少し踏み込んだ事業行っているの、さらに高まったとかという分析ができると思いますが、今現在では先ほど課長のほうから話したとおり、3回お話を聞いても、原因については特定できないということですので、そこについても推測で分析ということにはならないのかなと考えています。

○金兵智則委員 一定程度理解はしたいなとは思いますが、そうすると5年後の目標数値、この年にこれを超えていけばいいなというような形に、それまでにさまざまな事業をやっていくのだと思うのですけども、それがそれを押し上げたかどうか。この後増減があって、5年後にはたまたまここを超えていたという形になってしまうのではないかと、心配があったものですから、こういった分析になるかはっきりわかりませんが、その辺はある程度追いかけていく必要があるのかなと思ったのでお伺いいたしました。以上です。

○平賀貴幸委員長 ほかいかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、それでは続いて基本目標4についての質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○平賀貴幸委員長 特になければ次に進みたいと思います。

基本目標5についての質疑に入ります。

○金兵智則委員 端的にお伺いしたいと思います。

救急搬送の軽傷の割合がふえてしまっているところについて、担当課ではどのように分析されていたのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 説明の時にもお話したのですが、平成26年から27年度にかけて37%から38%に推移しているので、この数値というのは妥当な数字だというふうに判断されておりまして、今後も軽傷割合が高まらないような取り組みというのは、24時間の電話サービスなどいろいろ取り組んで継続していきたいということです。また、この割合についてはこの程度で推移するのではないかと判断しているので、さらにこのような取り組みは続けていきたいと思います。

○金兵智則委員 多少の増減はあったというところが増減の範囲内なのかなというところで理解をさせていただきたいと思います。

ちょっと5番というわけではないですけど、全体を通して評価をもう一度お伺いしたいと思うのですけどいかがでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 総合戦略、平成27年度の取り組み結果についてですが、おおむね計画の数値には達しているものが多いので順調に進んでいるのではないかと判断はしております。

現時点ではKPIの変更等も考えておりませんが、来年度以降の進捗状況等を含めて、またKPIの変更や事業内容の変更ということをこちらの委員会にも御相談したいと思います。

○金兵智則委員 もう一件、インフラの戦略的な予防保全について。今議会では多くの減額補正があったのですけども、これはこの辺での影響はどうなのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 この数字につきましては27年度の数値ですので、28年度で減額補正等の影響につきましては、今年度末にまた結果が出てくるのかと思いますので、その時点の数字でもって、また計画をどうするかという判断をしていきたいと思います。

○金兵智則委員 もちろんそうなのですけども、多分計画がちょっとずつずれていくのかなというふうに理解をしているのですけども、その辺で目標が達成されるという見込みなのか、ちょっと厳しくなっ

てきたなというような見解なのか、そういうところがお伺いしたかったです。

○高井秀利企画調整課長 現時点では目標どおりの数字は達成できると判断しております。

○金兵智則委員 先ほど来言っていますけれども、これをこのペースでいけば達成できるという白色の部分の精査というのを、もう一度行ってほしいなということを申し添えて終わります。

○岩永雅浩企画総務部長 今回たまたま黄色い未達成のところを中心に、ポイントとして御説明させていただいておりますが、総合戦略のK P Iの検証については、目標値を超えて達成したものについてもなぜ超えたのかという検証を求められていますので、委員おっしゃるとおり、全体的な検証していくという考え方です。

○栗田政男委員 全体を通してですが、各委員から適切な指摘等あったように感じます。

それは真摯に受けとめて、しっかりと修正すべきは修正しながらやっていただきたいのですが、そこで一つ気をつけてほしいのは、あくまでも先の話も含めた計画になっています。最初に見た時に、随分頑張って高い数値目標を挙げたなというふうに感じました。これは目標設定の中で役所的な見方をすると、今まではややもすると達成できるというぎりぎりのところできちっとやっていたように感じますが、こういう目標ですからやはりこの地域を元気にするための一つの大事な目的がありますので、目標設定はたとえ達成できなくてもそれに近づくのだという、100%じゃなくても120%の目標設定があっているのかなと思います。

ものによるとは思いますけれども、そういうことと、これからまだ先があります。その中で状況は大きく変わっていく場面も出てくるでしょうし、ただ一つだけはっきりしているのが、少子化対策だけは確実に進めないと人口減少に歯止めがかからないという現実は見えていますので、その辺がポイントになるかと思います。逐一推移を見ながら目標設定を修正するに当たって、余り低いところに設定して欲しくないということを個人的希望として申し添えたいと思います。

○松浦敏司委員 健康寿命の関係なのですが、男性では目標が79.34、女性は84.19。それに対して、到達は男性78.33、女性82.61と。男性でいえば現状とほぼ変わらないと。女性では逆に下がっているということなのですけど、これは何か特殊な要因とい

うか、その辺はどんなふうにつかんでいるのでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 健康寿命の年齢が82.61歳になったということに関して、原課としても今のところ判断が付き兼ねているという状況です。

○松浦敏司委員 また、これは微妙に変化してくるのだろうと思いますが、男性は、寿命伸びているという話も聞いています。

もう一つ、生活習慣病の罹患率については、目標に対して1ポイント位の違いが出ているのですが、これまでの罹患率22.71からすれば、一定の改善をしていると思うのですが、これは原課の努力もあったりして、こういうふうになっているのだろうと思うのですが、その辺何かわかりますか。

○高井秀利企画調整課長 こちらにつきましても、健康管理課のほうで、各種事業に取り組んでおりますのでそういった成果が現れているのではないかとこのように考えます。

○近藤憲治委員 地方創生をめぐる全体的な議論で、1点だけお伺いしたいと思います。

今回そのK P Iの平成27年分の検証と、それから現在進んでいる部分検証ということだったと思うのですが、達成しつつある部分、順調に進んでいる部分含めて見させていただきました。

一つは市で目標設定して、そしてそこへ向かって頑張っていこうということで努力をされているのだなと受けとめた部分があります。

もう一つそこで気にかかったのは、例えば経済政策系の部分でありますとか、商工労働系でありますとか、観光系でありますとか、これは事業者の努力も必要でありますし、教育分野で言えば学校だけではなく家庭、またその地域全体での協力・努力が必要であると考えます。

やはり地方創生というのは市役所がやるものではないと私は思っています、最終的にはそこに住んでいる住民のマインドリセットというか、自分たちのまちは自分たちがつくっていくという意識にたどり着いて、そして自立のまちへと進んでいくということが地方創生の肝だと思っています。市で目標設定されて、そして各原課で努力を重ねている部分はよくわかりますので、そこはもう一つ、市民の皆さんが主体となってやることが地方創生なのだというマインドを広げていくところにも心を砕いていただきたいと思いますし、私どももそういう意識を持つ必要があるのかなと思っていますけれども、そのあ

たりはどのように考えていらっしゃるでしょうか。

○高井秀利企画調整課長 委員おっしゃるとおり、戦略を遂行する主体は市民1人1人だというふうに期待をさせていただきたいと思います。

今後、市民の方が主体となってやっていくというふうなマインドを広げるに当たりまして、いろいろな周知活動を通しながら、広げていきたいと考えております。

○平賀貴幸委員長 その他何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○平賀貴幸委員長 それでは、これにて地方創生総合戦略検討特別委員会は終了いたします。なお今後については、必要があればまた随時開いていきますが、市の方はきょうの議論を踏まえながら事業の施行に積極的に当たっていただきたいと思います。

それではこれで終了いたします。お疲れさまでした。

午後2時52分閉会
